

第20回「保育実践研究」の募集を開始しています。
募集要項は本号付録です。ご覧の上、ぜひご応募下さい。

研究レポートの書き方 (1)

「保育実践研究」企画審査委員会

1. 研究のすすめ方

「研究」とはどんなことをいうのでしょうか。はじめに、一般的な研究のすすめ方を述べることにします。

自分が「おもしろいな」と興味・関心をもったできごとや、「不思議だな、どうなっているのかな」と疑問をもったこと、「どうしたらいいのかな」と悩んだことなどを、つまり「もっとよく知りたい」と思ったことを、もっとよく知ろうとすることといえるでしょう。

そのためには、第一に、自分が興味・関心や疑問を感じたことや悩んだことがどういうことなのか、はっきりさせる必要があります。つまり、**研究テーマを選び、問題を明確にする（研究の目的を明確にする）**ことだといえます。

ここでは、いわゆる「病後児保育」を研究テーマとして考えてみましょう。

なぜこのテーマを選んだのか。きっと気になることがあるのでしょうか。

何が気になるのでしょうか。子どもに悪影響があるのではないかと、親子関係に将来問題が生じるのではないかなど、さまざまなことが考えられるはずですが。これが「仮説」となります。ただ、ここではできるだけ具体的に考えることが大事です。子どもへの悪影響とは、身体的な面か、心理的な面か。身体的な悪影響とはどのようなことか。悪影響だけしかみられないのか、もしかしたら良い影響はないのか。

第二に、**どうしたら「知りたいことを知ることができるのか」を考える**必要があります。これは研究方法のことです。文献（論文や調査報告書など）を調べることもあるでしょうし、自分で「知りたいできごと」の例を集めることもあります。そのためには、観察し、記録するのがふつうですが、実験をしたり、調査票をつくって調査をしたり、専門家に聴き取り調査を行ったりすることもあります。データをあつめるわけです。

「病後児保育」に関しては、いくつか調査結果がありますので、それらをよく読みこんで、それらの調査結果から明らかになることをまとめれば文献研究になります。病後児保育の歴史の研究（いつごろからはじまり、どのように進展してきたのか）、制度の研究（国の制度はどうなっているのか、自治体による取り組みのちがいはどうか）、現状に関する研究（実施施設数や利用児数、疾病の種類など）、ニーズ調査（利用希望者はどれくらいいるか）など、さまざまな研究が可能です。

自分の園で実施しているならば、典型的と思われる少数の子どもを対象に、病後児保育室での泣きや遊びのようすなどを含む詳しい観察記録があるでしょうし、その分析を行うことができます。保護者に利用のニーズや利用後の感想などをきく調査も可能でしょう。

第三に、データをまとめます。研究レポートでは「結果」となる部分です。ここで大事なことは**客観的に記述する**ということです。**データと自分の考えや思いとを混同しない**ことが必要です。

項目ごとに整理して、順序を考えて書きます。簡潔に、しかし必要なことは落とさずに。

第四に、結果の意味するところを考え、まとめます。ここが「考察」です。「私はこう思う」と個人的な意見を書くのではなく、結果をふまえて、それはどのように考えられるのかを書きます。

結果の意味を考えるということです。

これで研究レポートはほぼ完成です。

その他の注意事項を記しておきます。

実際の保育研究では事例研究も多いと思われませんが、最近は個人情報保護の要請がつよくあります。したがって、原則として、その子がだれだか特定できないように、名前やイニシャルは記さず、仮名を使うなどの必要があります。また、生年月日も記さないようにします。そして、事例の理解に影響のない範囲で、細部を修正します。入園時の年月齢、性別、家族の状況などや、園のクラス名などは修正できると思われる事項です。

事例の理解における留意点としては、問題は、さまざまなかんじが積み重なって、立ち現れてきたのであり、ふつうは「原因 → 結果」というようには単純にはとらえられないものだということです。**子どもの行動には必ず意味があるのであり、その行動を文脈（前後関係）の中で考えることが必要**です。

また、日々の記録の書き方は、一つの意味のあるまとまりとして（エピソードとして）記すとともに、私とその子とのかかわりをふりかえり、その子の行動だけでなく、私がその子をどう理解し、対応したかを記すことが必要です。

2. 園での実践・取り組みをまとめる場合の書き方

以下は、このように書かなければならないという決まった書き方を述べたのではなく、研究レポートをまとめるときの参考にしていいただければよいものです。

1) 問題の提起

- ・なぜその問題に取り組んだのか（研究の動機）
- ・研究の背景

2) 目的

- ・この研究で何を明らかにしたいかを明確に、簡潔に（1、2行のこともある）
（注：1)と2)をまとめてもよい。）

3) 方法

- ・研究のすすめ方

4) 結果

- ・実践の経過を整理して、客観的に

（注：「結果と考察」という形で、4)と5)をまとめてもよいが、この場合には、段落を変えるなどして、データの部分とその意味づけ（考え）の部分がはっきり分かるようにすること。また、この場合、その最後のところで、全体的な考察があることが望ましい）

5) 考察

- ・目的、方法との関係
- ・取り組んだ経過の考察
- ・課題として残ったこと

6) 参考文献

3. 事例研究をした場合の書き方

ここでも、前項と同じように、このように書かなければならないという決まった書き方を述べたのではなく、研究レポートをまとめるときの参考にしていいただければよいものです。

事例研究については二つの研究方式があります。一つは、比較的長期の経過の中で、その子をどのように理解し、どのように対応したか、対応すべきであったか（その反省を今後に生かす）、あるいはこのような試みはうまくいったので報告し、参考にしてほしい、という場合。もう一つは、今、この子がしたことをどのように理解したらよいか、明日の保育に生かそうとするもので、事例研究というよりも保育カンファレンスというほうが適当かもしれません。しかし、その子の行動や心理をどう考え、話し合った結果どういう意見が出て、そのことをどう感じ、自分の保育を振り返ることができたかということも大事な研究テーマであるはずで、二つの研究形式があることをふまえながらも、一般的な研究論文のまとめ方を記します。

1) 主たる問題

- ・気になること、心配なこと、対応に困っていること
- ・だれが問題と思うのか…親か保育者か
- ・具体的なことばで

2) 事例の概要

- ・事例の氏名、イニシャルではなく、仮名などで
- ・クラスの特徴
- ・現在の園（クラス）でのようす
- ・入園時のようす
- ・入園後の経過
- ・いつごろから、またはどんなときに「問題」が顕著となるのか

3) 事例理解の背景となる情報

- ・生育歴（発達のマイルストーン、ライフイベントなど）
- ・家族構成

4) 経過

- ・できるだけ具体的に
- ・子どもの変化だけでなく、保育者の理解と対応をあわせて記すこと
- ・とくに、二つ目の研究方式の場合、日々の記録の書き方は、「〇月〇日、～をして活発に遊

んだ」「ミルク～cc、哺乳良好、午睡は～時から～時まで、睡眠良」というようなことではなく（こうした記録が不要だということではありません）、AちゃんとBちゃんがけんかをして、どう仲裁にはいったものかすごく悩んだ、子ども同士のやりとりに保育者としてどう関わっていくかを自分の問題として考えたいというような、保育場面の記録としては、そのできごと（関心をもったこと、悩んだことなど）を、「一つの意味のあるまとまりとして（エピソードとして）記すとともに、私とその子とのかかわりをふりかえり、その子の行動だけでなく、私がその子をどう理解し、対応したかを記すこと」が必要です。

5) 考察

4. 研究の意義

研究というと、日々の保育とは関係のないことのように思われるかもしれませんが、保育研究というのは、むしろ日々の保育実践を整理したものといえるでしょう。研究レポートをまとめることをとおして、日々の保育を振り返るよい機会になると思います。

第20回「保育実践研究」の募集

日々の保育から気づいた課題やエピソードについて考察した実践研究を募集しています。募集要項は4月号付録又は協会HPで。
締切は2025年11月10日(月)。皆様のご応募をお待ちしています。

☆ 最優秀賞：賞状、副賞10万円 優秀賞：賞状、副賞5万円 ☆

〈問合せ・応募書類送付先〉

社会福祉法人日本保育協会 企画情報部
〒102-0083 東京都千代田区麹町 1-6-2 麹町一丁目ビル 6F
TEL:03-3222-2114

※要項はこちらから（第1回～第19回までの作品も紹介しています）
<https://www.nippo.or.jp/laboratory/index2.html>